

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2012年度 第6回

報告題名：地域におけるリーダーのあり方とその育成について

報告者 西田 陽平	日時 11月1日 午後3時～
所属分野 農業経営経済学分野	場所 第二講義室
座長 山口 祥平	議事録担当者 渋谷 俊

出席者

長谷部、木谷、小山田、盛田、米澤、米倉、冬木、伊藤、石井、鈴木、スチン、滝田、山口、渋谷、室井、ハソムツ、徐、趙、Manalo、劉、王、キイ、井坂、志賀、西田、伊藤（良）、渥美、伊藤（航）、江守、佐々木、下田、畠山、金

報告要旨

現在、農業においては、後継者不足や耕作放棄などが問題となっている。また、農村ではコミュニティの再生や、独自の個性や特色を生かした地域づくりが盛んに行われている。そこで、これまで以上に重要となってくるのは地域リーダーの存在である。特に、震災の被災地においては、コミュニティの再建と農業の復興に、地域リーダーの存在の重要性が強調されている。

地域リーダーに関する問題については、古くから研究・政策の課題などに挙げられている。しかし、リーダーの重要性は認識しているが、他の側面の研究であったり、リーダーの存在を指摘するのみに留まったりと、現代のリーダーシップの内容については不明確なものが多い。

そこで、本研究ではこれまでのリーダー像と現在の農業・農村の問題を整理し、現代に求められるリーダー像を提示する。また、現代のリーダーを事例対象にリーダーシップの源泉や現在に至る過程を調査することで、今後のリーダー育成、リーダーシップ発揮に求められる要素を明らかにする。

質疑・応答

山口：PM理論の目標達成能力（P）と集団維持能力（M）は互いに独立したものと捉えているのでしょうか。例えば、集団維持能力がなければ、目標達成は難しいと思うのですが。

西田：PとMは関連しているものと考えています。両方を兼ね備えたPMが一番リーダーにふさわしいということですね。

山口：PとMわけての分析ではないということですね。

西田：はい。

山口：もう一つお伺いしたいのですが、リーダーが離脱できる環境とできない環境では、リーダー像は変わってくると思うのですが、それについては何か考えていますか。

西田：離脱できない環境とはどのような状況でしょうか。

山口：例えば、集落などはほぼ離脱できない状況、普通の組織などは離脱可能ですよね。

西田：地域のリーダーというのは、一般的な組織と違うと思います。先行研究では、一般的な会社組織などに関するものが多く地域リーダーには応用できないので、そこに注目しながら研究をしようと考えています。

木谷：まず語句として、地域リーダーの理想像というのは変だと思う。あと、こういう研究をみてよく感じることは、地域リーダーの属性や特性を調べて、いくら並べてもそれは現象を表しているにすぎない。どうしたらリーダーが出てくるかという問題には貢献できないような気がする。おそらく、地域や農業への思いが熱く、人間味溢れる人がリーダーにふさわしいと思うのですが、その抽象的な部分を分析しても、「こういうことをできる人が地域リーダーになりますよ」という議論にはできない。重要なのは、こういった条件を満たす地域リーダーをどう作るかという部分、地域リーダーの条件を考えるのではなく、それを生む素地を考えなくてはいけない。地域でどのようにリーダーを見つけ出すか、そういう環境づくりの方が大切だと思う。多くの条件でリーダーを縛るのではなく、ほっとけば出てくるような環境をどのように作っていくか考えなくてはいけないと思う。西田くんの資料の中にも少しあったがリーダーに一番必要だと思われるカリスマ性は、それがどういう条件かということ进行分析しても意味はない、むしろそういうのが出る環境、土壌は何であるのかを考えて欲しいと思う。コメントでした。

盛田：わからない部分があります。スライド17のこれまでのリーダー像の整理のまとめとそのあとのPM理論はどのつながっているのでしょうか。この二つを並べた西田くんの意図がよくわからない。

西田：PM理論はリーダーに関する基礎理論で、どういう環境でも考えられる一般理論です。しかし、実際は置かれている環境によって必要とされるリーダーは違ってくると思ったので。

盛田：それはわかります。それで、そのつながりをどのように理解すればいいのでしょうか。

西田：PM理論は必要最低限なものとして挙げて、これまでのリーダー像の整理のまとめはPM理論プラス時代状況によって何が必要なのかを示しました。

盛田：つまり、PM理論は超歴史的に捉えているんですね。それなら、時代ごとのリーダーをどういうPかどういうMかをそれぞれ示さないとなつなごってこないと思います。それともう一つ聞きたいのですが、現在のリーダー理想像を設定する仕方、どういう風に設定するのが今回の発表からは見えてこなかった。私の場合だったら、現在の農業地帯の課題を整理する中で、リーダーに求められるものは何かという流れで設定するのかなと思うのですが、西田くんの場合はどのようにするのか。抽象的なところから課題を絞るということとはできないのでしょうか。

西田：今後じっくりと検討していきたいと思います。

山口：リーダー像を考えるとときに例えばコミュニケーション能力が挙げられると思うのですが、そういったところは分析対象となるのでしょうか。

西田：今回の研究では、コミュニケーション能力はPM理論の集団維持能力含めて分析する予定です。

山口：どういう人とどういう頻度でどういうコミュニケーションをとっているのかは調査しないのですね。私はリーダーというのは、コミュニケーションが重要だと思うので。これはコメントです。

米澤：西田くんが念頭に置いている具体的なリーダーはいるんですか。

西田：はい。荒浜地区などで中心的に復興に当たっている人など該当すると思います。

長谷部：被災地を取り上げているが、被災地にはリーダーが必要だということが前提になっているのか。現在ははいないということになっているのか。

西田：必要だと思いますし、今必要に迫られて自然と出てきているのではないかと思います。

長谷部：自然に出てきているのなら、それでいいのではないですか。

西田：出てきている地域もあれば、でてきていない地域もあるので。

長谷部：出てこない地域はそれでいいということではないのですか。リーダーが出てこないとまずい理由は何ですか。リーダーが出てこないと他に遅れるからまずいということですか。

西田：リーダーがいた方が好ましい状況になるのではないかと。

長谷部：その好ましい状況というのがわからない。西田的理想像があるのか。それはすごく画一的な気がします。それなら、小さなうちから子供を隔離して西田的リーダー塾を開いて教育すればいいんじゃないですか。

西田：すでにそういったリーダー塾はよく行われていて、実際効果はあるのかなという問題意識はあります。

木谷：効果はないと思う。理想像を掲げて、それに則って教育するようなものではないと思う。数学などの知識に関しても、結果的にそうなたただけであって、そういう人がちゃんと地域リーダーになれるような環境にするにはどうすればいいか考えればいいと思う。行政がリーダーの条件をつけることで逆に地域リーダーが出にくくなっているということは考えられないのか。

西田：それはまだ確認していないことです。もしかしたらリーダー育成塾を出たリーダーが活躍しているかもしれない。

木谷：本当か。リーダーは本当に作れるものなのか。人間工場のようにできるものなのか。

長谷部：リーダーロボットやゲーム機にリーダーにやってもらうのはダメなのか。人間を教育して育成するよりは簡単で安い、ではなぜダメなのか。それをもう少し分かりやすく示してくれれば良かったと思います。